

令和7（2025）年度4月「歳時記」

令和7（2025）年度最初の歳時記です。今年度は、小学校や中学校で学習する古典作品を掲載していきます。おとなの方はもちろん、小学生、中学生、高校生の皆さんにも是非古典に親しんでほしいと思います。

<古文>

春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎはすこしあかりて、紫だちたる雲のほそくたなびきたる。

夏は夜。月のころはさらなり、やみもなほ、蛩の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るもをかし。

秋は夕暮れ。夕日のさして山の端いと近うなりたるに、からすの寝どころへ行くとして、三つ四つ、二つ三つなど飛び急ぐさへあはれなり。まいて雁などのつらねたるが、いと小さく見ゆるはいとをかし。日入りはてて、風の音、虫の音など、はたいふべきにあらず。

冬はつとめて。雪の降りたるはいふべきにもあらず、霜のいと白きも、またさらでもいと寒きに、火など急ぎおこして、炭もて渡るもいとつきづきし。昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、火桶の火も白き灰がちになりてわろし。

<現代語（口語）訳>

春は夜明け（に 趣 がある）。だんだん白んでいく山際の空が少し明るくなつて、紫 がかった雲が細くたなびいている（のが 趣 がある）。

夏は夜（に 趣 がある）。月の出ているころは言うまでもなく、闇夜でもやはり、たくさんの 虫 が入り乱れて飛んでいるのは（ 趣 がある）。また、ほんの一二つだけ、かすかな 光 を放って飛んでいくのも 趣 がある。雨などが降るのも 趣 がある。

秋は夕暮れ（に 趣 がある）。夕日が照って、山の端にとても近くなっていったとき、 鳥 がねぐらへ行こうとして、三羽四羽あるいは二羽三羽と、急いで飛んでいく 姿 まで、しみじみとした気持ちになる。まして、雁などが連なって飛んでいくのが、とても小さく見えるのはとても 趣 がある。日が沈みきって、風の音や虫の音など（が聞こえるのは）、またいうまでもなく 趣 がある。

冬は早朝（に 趣 がある）。雪が降ったのはいうまでもない、霜がとても白いときも、またそうでもなくてもとても寒いときに、火などを急いでおこして、炭を持って（廊下を）渡っていくのも、とても似つかわしい。昼になって、寒さが緩んでいくと、火鉢の火も白い灰ばかりになってよくない。

清少納言作「枕草子」第一段です。季節をテーマとした最初の文章で、余情に富んでいます。美しい情景を時刻を変えて切り取り、映像的に表現しています。

枕草子は「をかし」の文学と言われます。第一段では、「をかし」とともに「あはれ」という心の動きを表す言葉が使われています。

<注> 「^おをかし」…^{あか}明るく^{はな}華やかな^{じょうしゆ}情趣・^び美への^{あこが}憧れ やく^{おもむき}趣がある
「^わあはれ」…^{ふか}深い^{かんと}感動 やく^{しみ}しみじみとした^{きも}気持ちになる

また、この段では、「^{だん}春は^{はる}あけぼの。」「^{なつ}夏は^{よる}夜。」「^{あき}秋は^{ゆうぐ}夕暮れ。」「^{ふゆ}冬はつと
めて。」と体言止めで^{たいげん}述語が^{じゆつご}省略されています。ここでは、「^おをかし」が
^{しょうりやく}省略されていると^{かいしゃく}解釈し、「^{おもむき}趣がある」を加えて^{くわ}口語訳をしています。
^{せいしょうなごん}清少納言の^{かく}各^{きせつ}季節の^{さいこう}最高のシーンはこのようなものですが、^{みな}皆さんの^{きせつ}季節感
はどのようなものでしょうか。^あ安芸^き太田町^{おおたちょう}の^{ひょうげん}シーズンベストを表現するのも
^{おもしろ}面白く、「^{はってんかのう}発展可能な^{まち}町づくり」につながるのかもしれませんが、^{みな}皆さん、^{よい}良い
^{さくひん}作品ができましたら、^{しょうかい}ご紹介いただくと^{さいわ}幸いです。

^あ安芸^き太田町^{おおたちょう}教 育 委 員 会 ^{きょういく}教 育 長 ^{おおの}大 野 ^{まさと}正 人